

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（6月定例会）会議録
開催日時	平成22年6月18日（金）14時00分から17時00分まで
開催場所	保谷庁舎3階第2会議室
出席者	委員：小川議長、濱崎副議長、岡村委員、倉島委員、齋藤委員、白木委員、須永委員、本田委員、本領委員、松嶋委員、宮崎委員（五十音順） （欠席）稲葉委員、山田委員 事務局：磯崎課長、神田係長、諸岡主事
議題	(1) 「全員参加の地域づくりをめざして」について (2) 都市社連協第4ブロック研修会について (3) その他 1 都市社連協役員会（5月27日）報告 2 関東甲信越静社会教育研究大会（11月26日～27日）の参加について 3 全国社会教育研究大会福島大会（10月27日～29日）の参加について 4 補助金説明会の報告 5 7月定例会の日程変更について 6 次期正副議長（平成22年7月1日～平成23年6月30日）の選出について
配布資料	1 平成22年度都市社連協第4ブロック研修会実施要領（案） 2 ふれあいのまちづくり（資料） 3 平成22年度関東甲信越静社会教育研究大会分科会企画案（立川市） 平成22年度関東甲信越静社会教育研究大会分科会企画案（町田市） ・参考文献：地域課題解決のために「共に活動する」住民のネットワークづくり（九州女子短期大学准教授 大島まな 社会教育2010年2月号） ・第41回関東甲信越静社会教育研究大会（東京大会）開催要項 ・第52回全国社会教育研究大会福島大会開催要項 ・ふれあいのまちづくり（パンフレット） ・シルバー人材センター（パンフレット） ・保谷第一小学校地域安全連絡会NEWS
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>前回会議録の確認</p> <p>平成22年5月定例会議の会議録を一箇所（2ページ）訂正後、承認する。</p>	

(1) 「全員参加の地域づくりをめざして」について

○議長：

前回から引き続き地域づくりの取り組み事例についての検討をし、第4ブロック研修会の要領を決めていく。来月の都市社連協役員会で内容の報告をするので本日決定したい。

※事務局より配布資料の説明

- ・資料1の要領（案）は、前回会議で決まった内容を基に整えた。今回、テーマ等未定のところを決めていただきたい。資料2は、前回研修会の事例報告としてあがっていた「ふれあいのまちづくり」についての資料となっている。資料3は杉並区で行われる社会教育委員研究大会で、都市社連協として提案された分科会の企画案を配布した。第4ブロック研修会の内容を検討する際の参考にしていただきたい。その他、今回の地域づくりのテーマの参考となるとと思われる論文を配布した。また、前回会議でシルバー人材センターについて質問が出されたので、シルバー人材センターのパンフレットを配布した。シルバー人材センターは、平成23年4月から公益社団法人とする予定である。公益社団法人になると社会全体のための事業、すなわちボランティア・地域貢献にも取り組んでいくようになる。

※事務局より地域活動組織の説明

- ・前回会議で「しらうめネットワーク」に関して地域活動の組織としていろいろな名称がでてきたが、その関係がなかなか理解できなかったのでここで説明をしたいと思う。「ふれあいのまちづくり（ふれまち）」というのは社会福祉協議会が、ふれあいのまちづくり事業として取り組んでいる事業。「ふれまちのまちづくり」というパンフレットから内容を抜粋して資料も配布したので、参考にしていただきたい。このまちづくりの一番のポイントは小学校区を一つの単位として進めていること。学校区の地域住民に呼びかけをし、住民懇談会という名称で地域住民を組織することから始め、その後懇談会が必要に応じて活動を実施している。社会福祉協議会のHPを見ると、それぞれの地区の活動の紹介をしている。全小学校区に住民懇談会が立ち上がっている。

<主な意見等>

（「しらうめネットワーク」について）

○委員：

「しらうめネットワーク」との関係で言うと、この中に「ふれあいひろば」が参加している。

○事務局：

「ふれあいひろば」は第一小学校区域の住民懇談会の愛称。「しらうめネットワーク」という組織から見ると、「ふれあいひろば」は参加している一つの団体となる。もうひとつ「しらうめ」という名称がでてきたが、これは住民懇談会の活動拠点の施設名称。今回の「しらうめネットワーク」の事例報告のポイントは、福祉のまちづくりから始まった「ふれまち」の活動がある程度推進力となって、地域のつながりがひろがり、新たな目的意識を持って、他のいろいろな団体が参加した新しい組織を作り活動しているということだろう。

- 委員：「しらうめネットワーク」の活動は、住民懇談会の「ふれあいひろば」から始まった。同様に平成13年からママパト隊が始まった。その当時、不審者が多く自分たちが守れるところからスタートしようということから始まって、そこで私たちは防犯講習会などを開いたりした。その後安全連絡会が立ち上がり、防犯メインとなっていた。防犯ということで下保谷の駐在所も参加してくれることになり、区域の中でできる人ができる時にやろうといういう地域住民の意識で活動を7年間積み重ね、今

○委員：

「ふれあい広場」の活動はしらうめネットワークへの参加だけでない。防犯以外にも独自の活動として高齢者との交流や一人暮らしの訪問など行っている。朝のラジオ体操も実施し、黄色いバンダナをつけて活動している。

○事務局：

住民懇談会は個人の方でも組織でも参加できる組織形態になっている。しらうめネットワークは資料の「保谷一小地域安全連絡会NEWS しらうめネットワーク」もわかるように多様な団体等参加され、組織化されている。

○委員：

「ふれあい広場」も様々な団体が参加している。

○委員：

「しらうめネットワーク」の事務局は、参加団体の中の「白梅子ども育成会」と「ふれあい広場」がやっている。

○事務局：

「しらうめネットワーク」の中で、地域のために何か取り組みが必要だという時に、ネットワークに入っている組織がそれぞれに事業を実施し、地域全体を良くしていく活動となっている。

(事例報告の内容について)

○議長：

「しらうめネットワーク」のどのような話が聞きたいか。

○委員：

きっかけや成り立ち、どうやって広がっていったかを話してもらいたい。

○委員：

中心になった人物がいたのか、資金面の問題、バッチ作りなど実施しているが費用とかどうやって工面したのか、この組織がどんどん広がっていった要因、他の区域との交流などについても話をしてもらいたい。

○委員：

成功要因だけでなく、課題についても聞いたほうがいいのではないか。

○委員：

なぜ、このような人材が集まったのか話を聞きたい。

○委員：

事例報告後の講演では「しらうめネットワーク」の活動が社会教育の理念とどう関わって、どの点で優れているのか話をさせていただければと思う。

- 委員：
さらにどのように発展していくのか、今後の展開も聞きたい。
- 委員：
報告事例は「しらうめネットワーク」一つだけにするのか。
- 委員：
もうひとつは「街なかサロンにここ」の代表者の話が聞けないだろうか。
- 事務局：
「街なかサロンにここ」は武蔵野大学との連携事業で、これは社会福祉協議会のふれあいのまちづくりでの取組事業となる。
- 委員：
社会教育での取り組みで他にないだろうか。
- 事務局：
社会教育分野での他の事例としては、学校施設開放運営協議会がやっている地域生涯学習事業がある。学校施設を使っている団体や地域人材を活用した学習事業の企画実施を通じ、地域の人たちをつなぐ取り組みをしている。研修会での事例報告としては多様な角度からの地域づくりの形を提案することで、参加者の議論を活発化していけるのではないか。
- (テーマ名について)
- 委員：
テーマは地域の人々がいきいきと活動している社会教育でどうか。
- 委員：
テーマは新しい地域のコミュニティの絆とか人間関係はどうか。
- 委員：
これからの社会教育のための地域ネットワークづくりでどうか。
- 事務局：
学校施設開放運営協議会でも事業企画の取り組みの中でネットワークについて話をしてもらうことができるだろう。
- 議長：
テーマは「これからの社会教育のための地域ネットワークづくり」でどうか。
- 全委員：
異議なし

○議長：

テーマは「これからの社会教育のための地域ネットワークづくり」でどうか。

○全委員：

異議なし

(研修会の内容について)

○事務局：

研修会の内容は、地域活動の事例発表と講演とする。事例発表は「しらうめネットワーク」と「学校施設開放運営協議会」の活動内容とする。講演は白木委員にお願いする。時間配分は午後2時から4時30分までとし、事例報告各20分の後に質疑応答を15分、その後休憩10分とって、講演を65分という流れでいく。この内容でよろしいか。

○全委員：

異議なし

(今後の作業について)

○事務局：

今回確認した内容を7月9日（金曜日）の第4ブロックの打ち合わせ会議で提案し、承認を得た後、7月22日（木曜日）の社連協役員会に報告する。

○委員：

「しらうめネットワーク」の方へは、報告依頼の連絡をしておきます。

○事務局：

事例報告の正式な依頼は事務局から行う。報告依頼の形を個人として依頼するのか団体として依頼するのか等、正副議長、宮崎委員と調整して決めたい。次回は「しらうめネットワーク」の報告をお願いする方への依頼内容と方法、「学校施設開放運営協議会」事例報告をどのような形で行うのかなど、活動報告の整えに向け、社会教育委員の係わり方も含め考えていく。

(3) その他

1 都市社連協役員会（5月27日）報告

○議長：

武蔵村山市役所にて役員会があった。東京都杉並区で実施される関東甲信越静社会教育研究大会を中心に議論された。

2 関東甲信越静社会教育研究大会（11月26日～27日）の参加について

○事務局：

別紙要項のとおり内容が決まった。26日は全体会ということでパネルディスカッション、27日が分科会となっている。次回会議で参加のとりまとめをしたいので、参加する分科会を決めてきて欲しい。また、この大会で東京都市町村社会教育委員連絡協議会の交流

大会も合わせて行うため、11月26日の午前中に都社連協の表彰とブロック研修会の報告会がおこなわれる予定である。西東京市は第4ブロックの当番市として発表する事になるので、26日の午前からの参加となる。

3 全国社会教育研究大会（10月27日～29日）の参加について

○事務局：

資料のとおり、福島県郡山市で実施する。自己負担での参加となる。参加を希望される方は次回会議又は8月20日までに事務局まで申し出て欲しい。

4 補助金説明会（6月17日）の報告

○事務局：

前回会議で確認された要綱・要領に基づいて、補助金説明会を開催した。参加団体は1団体のみだった。この団体は前年度も申請した団体で、過去3回申請をしている。今年度4回目となる予定。原則3回までなので、4回目については社会教育委員会会議での意見を聞いた上での決定になると伝えた。今回、説明会への参加は1団体だったが、問合せは4件あった。

5 7月定例会の日程について

○事務局：

次回会議は7月16日（金曜日）を予定していたが7月23日（金曜日）に変更したい。

○全委員：

了承した。

6 次期正副議長（平成22年7月1日～平成23年6月30日）の選出について

○議長：

今回副議長を濱崎委員にやっていただいたこともあり、次期議長として濱崎委員をお願いしたいがどうか。

○全委員：

異議なし。

○議長：

副議長については次回会議で決めたいと思う。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（6月定例会）は終了する。

※次回会議 平成22年7月23日（金曜日）午後2時から